

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

平成26年9月8日（月）～平成26年9月14日（日）〔平成26年第37週〕の感染症発生状況

第37週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)ヘルパンギーナ 3)手足口病でした。

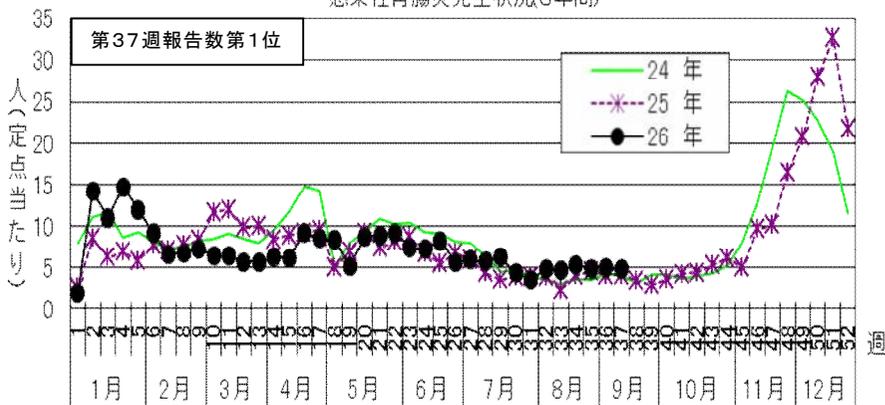
感染性胃腸炎は定点当たり4.82人と前週（5.03）から患者報告数は減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。

ヘルパンギーナは定点当たり1.73人と前週（1.70）から患者報告数はほぼ横ばいでしたが、例年より高いレベルで推移しています。

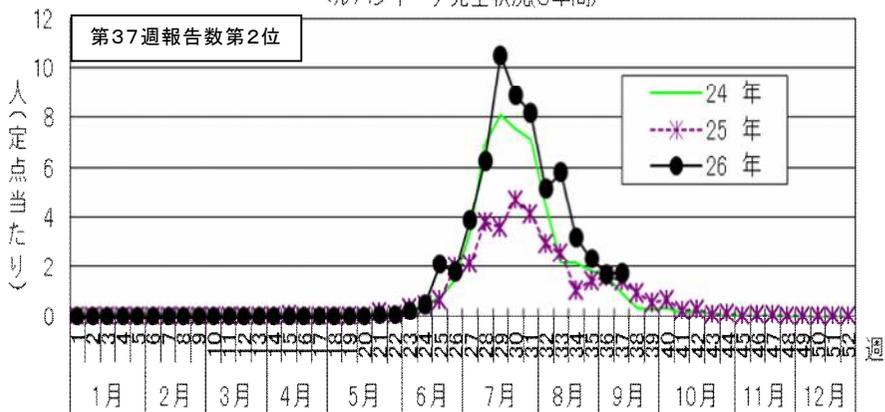
手足口病は定点当たり1.30人と前週（1.12）から患者報告数はほぼ横ばいで、例年とほぼ同じレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



ヘルパンギーナ発生状況(3年間)



「RSウイルス感染症」～秋から冬に向けて流行する感染症～

全国的にRSウイルス感染症の患者報告数が増加しており、川崎市においても、平成15年のデータ収集開始以降、過去最多のペースで患者報告数が増加しています。RSウイルス感染症は、「RSウイルス」を原因とする呼吸器疾患で、ほとんどの乳幼児が2歳までに感染します。

例年12月頃に流行のピークを迎えるため、今後の動向に注意が必要です。

RSウイルス感染症の特徴は？

感染経路：咳や鼻水等による飛沫・接触感染

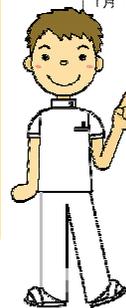
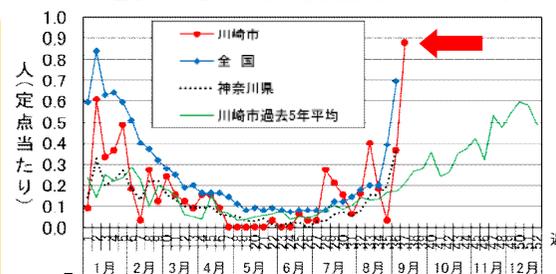
潜伏期間：3～5日間

症状：発熱、鼻水、咳などの風邪様症状が2～3日続きます。また、乳児患者の10～40%が呼吸困難などの下気道炎を起こすといわれています。

さらに、心疾患、肺疾患、免疫不全、さらにダウン症などは、重症化のリスクを高める原因となります。ハイリスクの新生児・乳幼児に対しては、感染を予防する方法もありますので、医療機関で御相談ください。

治療：特異的な治療方法はありませんので、対症療法を行います。

平成26年RSウイルス感染症発生状況（川崎市）



流行期(特に冬場)に乳幼児を連れて外出する際には 人ごみを避け、大人は 手洗いの徹底や マスクの着用などを心がけましょう。